

2018年(平成30年)12月28日(金曜日)

三島市ブランド協補助金

「市長に引き上げ伝えた」

16年度交付当時の市課長証言

三島市が事務局を務める「地域ブランド推進協議会」に対する一〇一六年度の市の補助金交付を巡り、当時の担当課長が補助金額の上限引き上げに必要な市長協議について「一六年九月の市議会一般質問の説明を市長にした際、金額を引き上げる旨を伝えた覚えがある」と本紙の取材に答えた。記録をとらなかった理由は「よく分からない」と言葉を濁した。

(佐久間博康)

補助金は一事業当たり五十万円が上限で、交付には審査会の開催が条件。上限を超えるには市長が特別に

認め必要がある。市は同年九月十四日に「審査会を実施し、審査員了承済み」として二百万円の交付を決

定したが、関係者によると、実際には審査会も市長協議も行われていない。今年十一月末の市議会一

般質問で、市側は「記録はないが、当時の職員に聞いた」として「審査会はしていないが、審査員がいた会議で話し合い、了承を得るなどしたので、審査会がなされた」とみなした。「市長協議は一六年九月二十六日に行った」と答弁した。

当時の担当課長は「市長との打ち合わせには、私と協議会副会長だった地域活性化戦略監と担当部長が出席した。戦略監が市長に資料を見せて説明したはずだ」と述べた。

豊岡武士市長は二十一日の記者会見で「記憶は定か

ではないが、口頭で了承したという認識だ」などと答えていた。稟議や決裁の形をとらなかった市長協議に

ついて、静岡大学人文社会科学部の日詰一幸教授(行政学)は「ずさんでおかしな手続き」と批判している。